

「暑い、暑い」と言いながら、それでも季節は進んでいます

「いつになったら涼しくなるのだろう。」登校してくる子どもたちから、そんな声が聞こえてきます。9月も中旬になりましたが、強い日差しはまだまだ夏そのもの。毎日、熱中症対策を続けながら教育活動を行っています。

それでも、季節は不思議なものです。空を見上げると雲の形が少しずつ変わり、夕方になると日が暮れるのが早くなりました。木陰を吹き抜ける風が、ほんの少しだけ優しく感じられる日もあります。自然は、私たちに気付かれないほどゆっくりと、しかし確実に次の季節へ向かっています。

子どもたちの成長も同じです。毎日接していると、その変化は見えにくいものです。しかし、「自分から挨拶ができるようになった」「友達の話最後まで聞けるようになった」「難しい問題にも諦めず取り組めるようになった」など、小さな成長は確かに積み重なっています。

竹は長い間、地上ではほとんど伸びません。その間、土の中でしっかりと根を広げています。そして、準備が整うと驚くほどの速さで成長します。子どもたちも同じです。目立った変化が見えない時期でも、心や考える力、人との関わり方など、大切な「根っこ」を育てています。

学校は、すぐに結果が見えることだけを求める場所ではありません。挑戦して失敗すること、友達と意見が違って考え直すこと、できなかったことが少しずつできるようになること。その一つ一つが、未来につながる大切な学びです。

暑さはもうしばらく続きそうですが、子どもたちは毎日、新しい一歩を積み重ねています。学校でも、水分補給や休憩を十分に取しながら、安全を第一に教育活動を進めてまいります。

ご家庭でも、お子さんの体調管理に加え、「今日、一番頑張ったことは何だった？」と声を掛けていただくと、小さな成長に気付くきっかけになるかもしれません。

季節はゆっくりと秋へ、そして子どもたちは一歩ずつ未来へ。そんな「目には見えにくい成長」を大切にしながら、今学期も歩んでいきたいと思います。

給食指導

9/8

給食の時間に、栄養教諭による給食指導を行いました。その日の給食に使われている食材や栄養、食べ物が体の中でどのような働きをするのかについて、分かりやすく教えていただきました。

子どもたちは、実際に給食を食べながら話を聞き、バランスよく食べることの大切さや、食事と健康とのつながりについて考えることができました。



がん教育

9/10

5・6年生の児童を対象に、「がん教育」を実施しました。外部講師として、桑名市総合医療センター 理事長様お招きし、医療の専門的な立場から、がんという病気や健康、命の大切さについてお話しいただきました。

がんは、誰にとっても身近な病気の一つです。今回の学習では、「がんとはどのような病気なのか」「どのような原因が関係しているのか」「予防や早期発見のために大切なことは何か」などについて、子どもたちにも分かりやすく教えていただきました。

また、病気についての知識を身に付けるだけでなく、自分の命や健康を大切にすること、家族や周りの人の健康を思いやることについても考えました。病気になった人への理解を深め、一人一人がかけがえのない存在であることに気付き、自分だけでなく周りの人の命も大切にしようとする心を育てていきます。

子どもたちにとって、「病気を正しく知る」「命の大切さを考える」「自分や周りの人の健康を大切にする」ことを学ぶ貴重な機会となりました。

